

資源循環型

環境シリーズ〈学校編〉



多摩ニュータウン環境組合
リサイクルセンター長
江尻 京子さん

ぼくらの ごみゼロ 大作戦

リデュース・リユース・リサイクル

上映時間 18分

ビデオ版 66,000円

価格は税抜 [C#3096]

対象と単元

中学校・高等学校
総合的な学習の時間
環境教育



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

環境問題は、現代社会において非常に重要な要素の一つになっています。学校教育も含めた社会全体で、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムを問い直し、新たなライフスタイルの確立を目指すことが急がれています。

この作品では、ゴミの問題を入り口にして、生活に密接に関わっている「環境問題」を考えさせることを狙っています。作品では、資源ごみのリサイクルや、リデュース、リユースに触れ、「資源循環型社会」の考え方をわかりやすく解説します。また、ISO14001を取得した学校や、身近なリサイクル活動に取り組んでいる団体取材し、生徒の学習活動の手がかりとなるような事例として取り上げています。

内 容

■缶を捨ててはダメ！

後藤梨香は中学3年生。「総合的な学習」で日本のゴミ問題を勉強している。ある日梨香が公園のベンチで本を読んでいると、同級生の剛と健が通りかかり、持っていた缶をゴミ箱に捨てる。『こらッ！だめでしょ、缶を捨てちゃ、缶やペットボトルは資源なのよ』と二人を相手に勉強したばかりのゴミ問題について話し始める。『一年間に家庭から出るゴミの量はどれくらいでしょうか？』『この中に本当のゴミはどれでしょうか？』答えられない剛と健。

■ゴミ処理の問題点

リサイクルセンター長の江尻さんが梨香の疑問に答える。『現在日本には焼却施設が1700ヶ所以上もあって年間4000万トン近くのごみを焼却処理しています。しかし環境汚染や最終処分場などの問題があり、出来るだけゴミを出さないようにすることが肝心です』

■資源ごみのリサイクル

『缶、PETボトル、食品トレイ、びん、新聞、ダンボールなどは資源ごみであり、製品を溶かしたりしてもとの原料に戻して、また同じ製品や別の製品を作ることができます。つまりリサイクルです。スチール缶やアルミ缶は原料として再利用され、もう一度缶になったり他の製品になったりします。リサイクル率が100%になればゴミゼロということだからポイ捨ては絶対にしてはいけません。びんにはビールびんのように回収して何度も再利用するリターナブルびんと一度きりで捨てられてしまうワンウェイびんがあります。紙は種類によって再生されるものが違うのできちんと分別して出すようにしましょう。PETボトルは軽くて丈夫で、中身が見え、キャップができることなどから最近、急激に増えています。回収されたPETボトルは、繊維製品や文房具などに再生されます。食品トレイなどの発泡スチロールは、もう一度トレイや使い捨ての弁当容器、包装材になります。リサイクル製品にはエコマークのような環境ラベルが付いており、そうした

環境に優しい製品を購入することをグリーン購入といいます。そしてそういう製品を進んで買ったり、使ったりする人を“グリーンコンシューマー”といいます』

■リユースとリデュース

リサイクルよりもっといいゴミの減らし方がリユース・再利用とリデュース・発生の抑制である。リユースはビールびんのように何度も使うこと、リデュースは、ゴミになるものを出来るだけ手に入れないようにすることである。

■工学院大学附属中学校・高等学校のリサイクル活動

この学校は、平成13年11月にISO14001の認証を取得した。高校の生徒会長の川瀬君と島田先生に聞く。

■東京都北区富士見橋エコー広場館のリサイクル活動

北区リサイクラー活動機構の竹腰里子理事長に聞く。『一人一人が主役になってですね、やっていかなければいけない。私どものキャッチフレーズは、リサイクル一人一人が皆主役ということがそういう標語になっております』

■3Rの実践

ゴミを減らすには3Rの実践が大切であることをアピールする。手始めに自分たちの部屋のごみをゼロにすると決意する3人が帰って行く。

プロデューサー・・・中鉢 裕幸 脚本・監督・・・西田 洋介

監 修・・・早稲田大学政治経済学部教授 法学博士
寄 本 勝美

制作協力・・・株式会社リョーイン

企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2003年作品

P

資源循環型 環境シリーズ3作品

- 〈社会編〉持続可能な社会をめざす 循環型社会の構築
- 〈学校編〉ほくらのごみゼロ大作戦 リデュース・リユース・リサイクル
- 〈家庭編〉家庭の中の3R Re-Styleで創る循環型社会

関東営業所 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業所 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区国泰寺町1-5-31 〒730-0042 ☎082-249-3930
高松出張所 高松市本町11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
福岡出張所 福岡市博多区中洲4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買い上げは……

株オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101